

# 呉錦堂を語る会通信

NO.16 Oct. 2014

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34

橋 雄三 方「呉錦堂を語る会」

Tel. 078-911-1671

編集 「呉錦堂を語る会通信」編集委員

発行日 2014.10.15



## 1927年10月3日朝、 神戸到着 蒋介石、 呉錦堂長男 呉啓藩宅を経て有馬へ

蒋介石の1927年9月末から11月上旬にかけての来日は彼の下野中のできごとでした。27年といえば、蒋介石による反共クーデター、続いて南京国民政府の樹立があり、他方、武漢政府内でも汪兆銘による共産黨員追放などがあって、国共分離がはっきりした年で、そのような政治状況下での下野でした。政局の考察はここまでとし、以下、大阪朝日の記事をもとに蒋介石の神戸着後の行動を追ってみます。(編集委員 橋雄三)



ここに掲載したのは昭和2年10月3日付大阪朝日新聞夕刊です。蒋介石が下野中ということもあってか、二面記事です。本文のみを現代かな遣いで書き起こしました。

命の父を憐う盛んな出迎えはさすがに広い神戸駅プラットホームを埋めた、やがて列車が着くと破れんばかりの喊声をあげ、日本語で万歳を叫び、半ば頭の禿げかけた蒼白無髯の蒋介石氏は窓外に頭を出して、この盛んな出迎えにまずにこやかに応えて下車、熱狂した国民党員の打ち振る青紅の旗の渦に巻かれ、神戸在任国民党軍の男女に護られて駅外に出た、ここにも華強学校、中華学校男女生徒百余名が堵列して出迎える、蒋介石氏は異境にこの盛んな出迎えを受けスツカリ上機嫌で、左右の出迎人に相恰を崩して会釈している様は全く戦塵を払い血腥い戦場に数十万の革命軍を叱咤した將軍とは思われない、一行は直ちに呉啓藩氏の自動車で龍池通六丁目の呉氏邸に赴いた、同邸にはさきに来朝した前武漢政府財政部長宋子文氏がいる、自動車がつくと宋氏は蔣氏を玄関に出迎え固い握手を交し、ここに支那南方の二要人は母国の多事を忘れ、異国の一角に相会したのである、蔣氏は呉氏邸に入つて落ちついて旅の疲れを癒すまでもなく各社写真班の前に立ち数十発のマグネシウム煙におさまられた

(中略) 蔣氏に刺を通すると、氏は

母国をあとにすべてを忘れて外遊の途に上りましたが、時間のない旅には予定もありません、神戸に着いたのは友人が沢山いるので久し振りに会いたかったからです、神戸市は十三年振りです、神戸は美しく大きく変わりましたね

と流暢な日本語で語り、孫文氏最後の外遊の地であった神戸を懐しげに窓外の美しく秋の陽に輝く町を眺めた、かくてほんの十数分を呉氏邸に止つたのみで、直に宋子文氏とただ二人切有馬ホテルへとドライブしたが、宋子文氏の令妹宋美齡嬢との縁談もしのげ、二人が肩を並べて親しく交す家庭的の親しさをみる事が出来た

宋子文氏は母堂宋太仙刀自、宋子良、宋氏夫人、令嬢とともに来朝以来秋気漸く深い閑静な湯の町有馬ホテルに静かな日をおくっているが、三日早朝蒋介石氏が神戸に到着するので、二日から神戸に出で葺合の呉啓藩氏邸に泊り蒋介石氏を迎えたが、支那南方の二要人蔣、宋両氏を乗せた自動車は随員の誰をも加えず、たった二人きりで午前十時過ぎ早くも有馬ホテルに着いた、(中略) 宋子文氏は三日前後京都、奈良を経て東京に赴くらしく、蒋介石氏は午後神戸に帰り、東上する由だがその日程はまだ判明していない

# 大人物小故事 (10)

## 我的外公呉錦堂 曹愛德著

曹愛德著『大人物小故事—我的外公呉錦堂—』の連載も7回目となりました。今回は(10)「美酒飘香」と(11)「船票」を載せました。お楽しみください。日本語訳は引き続き、編集委員の橘雄三が担当いたしました。

### 美酒飘香

我外公平时日理万机，操劳辛苦，对自己的衣着一贯朴素随意。就是有那么一天，他却讲究起自己的服饰，对着镜子换了一件又一件，脸上不时露出喜悦的表情。我妈就好奇地问外婆：今天阿爸要去哪里呀？我外婆就告诉我妈：“今天，你阿爸要去参加一个特别的婚礼！”于是我妈就忍不住地奔过去，要求阿爸带她一起去。我外公急忙说：“阿囡，今天阿爸要去喝喜酒，不能带你去，等阿爸回来带喜糖给你吃。”

因此，那天晚上，保姆怎么哄我妈她都不肯回房休息，非要等阿爸回来。后来保姆实在没有办法，就吓唬我妈：“你再不回房，我要去告诉太太了！”我妈就动了动脑筋，就说：“那好，我听你的，但有一个条件，不许关灯！”而且要保姆陪着她。折腾了一段时间，终于听见大门的声音，一定是阿爸回来了，我妈听见脚步声离她房间越来越近，就一骨碌从床上跳下来，扑进外公的怀里。外公紧紧地抱着我妈，把她送到床上，发疯似地在我妈妈脸蛋上，额上不停地亲吻。啊！一股浓郁的美酒香味，直扑我妈的鼻孔和喉咙，我妈非但没有感到恶心，相反觉得好闻极了。我妈看到外公兴奋的状态，就说：“阿爸，你醉了！”我外公就说：“阿囡，阿爸没…有…醉！今天…是阿爸…最…最高兴…的日子！”接着就滔滔不绝地述说今天的婚宴如何如何地隆重：“新娘年轻漂亮，是个大…

美女，早年在美国留学，是一个大才女，今天晚上她还给我们弹一首钢琴曲子，新郎真有福气！”外公讲到这里眼睛都闪着金光。“大家…开心，阿爸…就多喝了一杯！”接着他又喋喋不休地说：

(次頁に続く)



我的母親攝于日本

### 美酒漂香

私の祖父は、普段、多忙を極め、骨身を惜しまず働き、一貫して、思いのまま地味な身なりをしていました。けれどその日は、祖父は服や身に着けるものに念を入れ、鏡を見て、この服あの服と取り換え、顔には、たびたび喜びの表情を浮かべていました。私の母は好奇心から祖母に、「今日、お父さんはどこへ行くの？」と訊ねました。祖母は母に、「今日、お父さんは特別な婚礼に出席しなければなりません」と言いました。それで、母は、たまらず駆け寄り、「お父さん、私も連れて行って」と頼みました。祖父はせわしく、「いい子だね。今日、お父さんはお祝いのお酒を飲まなければならないので、お前を連れていけない。お祝いの飴を持って帰るから待っていなさい。」と答えました。

それで、その日の夜、お手伝いさんがどのようにあやしても、私の母は部屋へ行って寝ようとはせず、どうしても、お父さんの帰りを待つと言い張りました。そのあと、お手伝いさんは本当に困ってしまって、母を「部屋へ戻らないのなら奥様に言いつけますよ！」と脅しました。母は頭を働かせて、「わかった。いうことを聞くわ。そのかわり灯りを消しちゃダメ！」と言い、更にお手伝いさんに、母と一緒にいてくれるように言いました。一刻、ごろごろ寝返りを打っていると、ついに、大門の音が聞こえました。きっと、お父さんが帰ってきたのです。母は、足音がだんだん部屋に近づいてくるので、ごろりと寝返りを打ってベッドから飛び降り、お祖父さんの胸に飛び込みました。祖父はぎゅっと母を抱きしめ、ベッドに寝かせ、まるで気がふれたように母のほっぺたや額にキスをしました。あつ！一筋の濃厚な美酒の香りが直に母の鼻やのどを突き、母は吐きそうになる一方、逆に、なんともいい香りと感じました。母は祖父の興奮した状態を見て、「お父さん、酔っ払っている！」と言いました。祖父は「瑶ちゃん。父さんは、酔って…なんか…いないよ！今日、お父さんは最高の日なんだよ！」と言い、続いて、その日の婚礼の宴がどんなに盛大で厳かであったかと滔々と話し、「新婦は若くきれいで、…とても美しい女性で、以前、アメリカに留学した大才女で、夜、ピアノを一曲弾いてくれた。新郎は本当に果報者だ。」と言いました。祖父はここまで話すと、目はきらきら輝いてきました。「誰もみんな…楽しかったので、お父さんは少し飲みすぎた！」続けて、(次頁に続く)

## (美酒飘香 続き)

“今天是一个高…兴的日子，阿爸喝上了，孙先生和宋小姐的喜宴，太…高兴，太难，忘了！”外公的声音越来越轻。看见阿爸酒性发作，我妈赶快叫佣人搀扶外公回房去。

那晚我妈妈也感到是最幸福的夜晚，我妈妈闻着美酒的香味，想着外公的细语，看见床边精美的喜糖，就慢慢地进入梦乡。第二天醒来，妈妈觉得房里还留有美酒的香味，所以我妈妈一直到年老的时候还保持着每天要喝一小盅葡萄酒的习惯，高兴的时候还给我们重复地讲述当年我外公参加国父孙中山，国母宋庆龄的婚宴，喝到了上等美酒的宝贵的经历，妈妈讲述的时候心情特别开朗和骄傲。

## (美酒飘香 続き)

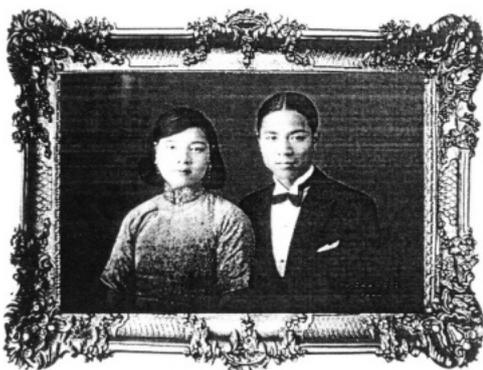
祖父はとめどなく、「今日は楽しい日だった。お酒も飲んだよ。孫先生と宋御嬢さんの結婚の宴、本当に楽しかった。忘れられない！」と話しました。祖父の声はだんだん小さくなりました。お父さんが酔いがまわってきたのを見て母は、すぐに人を呼んで、祖父が部屋に戻るのに手を貸すよう言いつけました。

その夜、母も、最も幸福な夜だと感じました。母は美酒のよい香りを嗅ぎ、祖父のささやきを耳に留め、ベッド傍のきれいな祝い飴を見て、ゆっくりと眠りにつきました。翌日、目を醒まし、母は部屋に残っている美酒の香りを感じ、それで、母は年老いるまでずっと、毎日、一杯の葡萄酒を飲む習慣を続けました。また、楽しいときには、私たちに繰り返し、その年、祖父が国父孫中山と国母宋慶齡の結婚の宴に参加し、上等の美酒を飲んだという貴重な経験の話を語りました。母はこの話をするとき、特別、晴れやかで誇らしく見えました。

## 大人物小故事 (11)

## 船票

我外公是旅日华侨，所以我妈妈小时候在日本长大读书，偶然也回到中国求读，我父亲在日本留学，认识我母亲，他们结婚后在日本定居，并生有两个女儿。有一年，我爸妈有事，来到了上海，但是事情还没有办好，就突然接到日本的电报，说大女儿有病，催爸妈速回日本。当时回日本的轮船票很紧张，要预订的！临时去买呢，只能买到三等的船票，我爸妈只好无奈地上了船。一看三等的船舱很差，正在犹豫时，服务员上前询问：“先生，太太，你们是不是走错了船舱？”于是父亲就讲出了实情，并且告诉他们自己的身份。商量是否能换票，工作人员马上请示了船长，当船长知道是吴锦堂先生的女儿，立即从座位上站起来，表示很敬仰！并说：“吴锦堂先生是个伟人，他对中国和日本做了很多的好事！我们曾经也间接的受过他的益，是我们后人的榜样！”然后立即吩咐服务员，请我爸妈换到头等的豪华型包厢船舱，并且一定不要加收收费！还给我爸妈提供了最好的服务，可见我外公的名望已经享誉遐迩！



我的父母合影于日本

## 乗船券

私の祖父は在日華僑で、母は子供の頃、日本で成長し、学校に通い、たまたま中国に戻っても、勉学の機会を見出していました。私の父は日本に留学し、私の母と知り合い、父母は結婚後、日本に定住し、二人の子供をもうけました。ある年、父母は用があって、上海に行き、まだ、用が終わっていないのに、突然、上の娘が病気で、即刻の帰国を急き立てる日本からの電報を受けました。当時、日本へ戻る船の切符は取りにくく、予約が必要でした。その時、買いに行くと、ただ、三等の切符しか買えず、父母は、ひとまず乗船するしかありませんでした。見たところ、三等の船室は非常に悪く、ためらっていると、客室係が歩み寄り、「お客様。船室を間違われたのではありませんか？」と声をかけました。それで、父は実情を話し、併せて、自分たちの身分を告げました。もっといい船室に換わることができるかと訊ねると、客室係はすぐに船長に指図を仰ぎました。船長は、呉錦堂先生の娘とわかると、直ちに席から立ち上がって敬意を表し、「呉錦堂先生は偉人です。先生は中国と日本のためにたくさんの慈善事業をしました。私たちは、かつて、間接的にも先生のおかげを受けたことがあります。先生は私たち後代の者の手本です。」と言いました。そのあと、即刻、客室係に、父母たちが一等の豪華な個室に移れるよう手配を言いつけ、しかも、どうしても、追加料金を受け取らず、また、最上のサービスを提供しました。このことから、祖父の声望が、すでに広く知られていたことがわかります。

## 一枚の写真「呉氏宅の蒋介石と呉啓藩」

呉錦堂の長男、呉啓藩(1894年8月生まれ。1936年11月8日死去)の写真に貴重な一枚が加わりました。下にあげた、呉啓藩宅で撮った、蒋介石と一緒に写っている写真です。この写真は、つい最近、孫文記念館の安井三吉前館長、西村成雄副館長らが朝日新聞社所蔵の資料を調査中に見つけられたもので、同社の承諾を得て掲載しております。(編集委員 橘雄三)

### 《大阪朝日新聞記事中の登場人物》

本題に入る前に一つ触れておきたいことがあります。今話題にしている大阪朝日新聞の記事中、蒋介石以外に、宋子文、宮崎龍介、呉啓藩の名が見えます。1918年には宋嘉樹が死に、22年には宮崎滔天が、26年には呉錦堂が死んで、その子供たちの時代になっております。蒋介石にしても、25年に孫文が死に、汪兆銘と後継者の地位を争っております。時代の移り変わりに感慨深いものがあります。

### 《蒋介石の神戸訪問の目的》

蒋介石の1927年10月の神戸訪問の目的ですが、宋美齡との結婚に関する事、つまり、有馬温泉に滞在する宋美齡の母親に美齡との結婚の承諾を得ることだったのは明白です。神戸から有馬へは、その間に位置する呉啓藩宅を休憩場所とし、啓藩の車で往復しています。これは、美齡の兄で前武漢政府財政部長宋子文の書いた筋書きと思われる。

1927年秋、神戸、有馬での出来事は、蒋介石、並びに宋家にとっては、大きな意味を持ったのですが、その脇役を務めた呉啓藩にとってはどうだったのでしょうか。

新聞記事にはこのあと、「蒋介石氏は(三日)午後神戸に帰り、東上する由」とありますが、実際に東上したのは10月12日でした。この間、5日、6日は奈良に

遊び、8日は美齡の母親を神戸港に見送り、9日は午前中、中華会館で講演をし、午後舞子へ行き、舞子浜の万亀楼に宿泊し、10日は明石公園を遊覧し柳家旅館に宿泊しています。東上までの日程調整の感が否めません。(この段落、家近亮子論文「蒋介石の1927年秋の日本訪問」に拠る)

### 《蒋介石と呉啓藩の合影》

上述朝日記事中、「蔣氏は呉氏邸に入って落ちついて旅の疲れを癒すまもなく各社写真班の前に立ち数十

発のマグネシウム煙の煙にもいやな顔を見せず、快くカメラにおさめられた」とあります。ここに取り上げた写真は、そのようにして、大阪朝日新聞のカメラマンによって撮影された内の一枚と思われます。

蒋介石の肩から上、周囲が塗りつぶされております。顔の輪郭を際立たせるためでしょうか。意図がよくわかりません。

このとき、呉啓藩は33歳です。十代の終わりから二十代前半にかけての写真、よく知られた3枚は全て、若者らしい凛々しい



顔で写っております。ところがこの写真では、ちょび髭を生やし、丸縁のめがね、ダブルのスーツに蝶ネクタイで、胸のポケットからはハンカチーフが覗いています。この日、蒋介石の接待役として、最高に意識した結果でしょうか。

蒋介石が座っている椅子、背景の重厚な材質の衝立、右脇のテーブルとテーブルクロス、床の絨毯など、呉啓藩邸の室内の様子が非常に興味深く見て取れます。裏には、「蒋介石氏(立テルハ呉啓藩氏)神戸市籠池通呉啓藩宅にて」とメモされています。

### 《神戸新聞の扱い》

同日の神戸新聞は、さすが地元紙で、蒋介石関連の記事は一面トップです。

